



次の時代を切り開く皆さんへ！

学友会長 佐藤 昇

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

在校生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？

さて、新型コロナウイルスのパンデミックで大学生活も大きく影響を受けておりましたが、最近は少しずつ以前の大学に戻りつつあります。大学では「学ぶこと」が学生として最も重要なミッションです。「学ぶこと」は医学の専門知識・技能や教養を高める自由学芸などの大学の講義・実習だけを指すわけではありません。特に医学部は医療という実践の現場で活躍する人材育成を行っており、そのためには大学時代を通じて、他者とのコミュニケーションや協調・協働する姿勢やスキルを身に付ける必要があります。したがって皆さんは学問を学ぶだけでなく、学生生活を通じて人間として成長し、他者を思いやる気持ちや行動、社会性・倫理観などを身につけることが求められます。

学友会は学内における文化、スポーツ活動を通じて大学教職員、学生、および卒業生による交流を図る目的で、大正12年（1923年）に新潟医科大学学友会として結成されたのに端を発し、戦後に再建されて現在に至っています。現在、運動部と文化部合わせて30以上が活動しており、多くの学生が参加しています。また5月には同窓生を含む教職員と学生が参加する医学部大運動会が開催されており、コロナ禍で中断がありましたが昨年4年ぶりに開催することができました。これらの課外活動は、学生生活を豊かにし、様々な経験を積むことで人として大きく成長する機会となります。部活によっては他大学と日頃の成果を競い合う場を通して、合い互いに切磋琢磨することで、思わぬ交友が全国に広がるきっかけにもなります。また大学から飛び出て、社会の方々と交流する機会となる活動もあります。同級生や先輩後輩との絆を深め、様々な異なる価値観を知り、理解す

ることは、今後特に重要になることでしょう。コロナ禍で中断されていた医歯学祭も皆さんの熱意があればより良い形で再開されるものと期待しております。

現在の医療は複数の異なる専門を有する医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士などの専門職、事務員や時に行政の担当者などとチームを作って診療に当たるのが当たり前になっています。この流れは今後衰えることはなく、ますます強まることと思います。これは医療に限ったことではなく、研究の世界でも異なる専門性を持つもの同士が手を組んで国際的な研究チームで研究を進めることで、より大きな最先端の研究を展開することができます。医学科に在籍する皆さんは、これからの医療や医学に携わるために、これまでの先輩以上に他者と協働することが求められ、そのための準備は大学の講義・実習だけでは不十分です。日頃から様々なことに興味を持ち、他者と触れ合う機会を大切に、実りある学生生活を送ってください！



High on Life ～学友会委員長を終えて～

令和5年度学友会委員長 櫻井 優馬

令和5年度学友会委員長を務めさせていただきました、医学科6年櫻井優馬です。

初めに、先生方をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃より学友会を御支援いただきまして、誠にありがとうございます。今年度も皆様の御支援の下、この学友会誌を発行できましたこと大変喜ばしく思っております。昨年100周年を迎えた学友会は、節目を迎えての新たな1年、学生生活のさらなる発展のために日々邁進して参りました。至らぬ点もあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次いで、新入生の皆さん、御入学おめでとうございます！大変な受験生時代を乗り越え、一人一人が様々な思いをもってここにいらっしゃることと思います。是非、その思いを忘れることなく次のステップへ進むための原動力に変えて、これから始まる新潟大学生としての6年間で充実した素晴らしいものにしてほしいと願っております。皆さんの学生生活を充実させるための力添えを、学友会としても精一杯できればと考えております。

そして在校生の皆さん、学生生活を存分に楽しみ、実りのあるものにできているでしょうか。講義に実習にと豊富なカリキュラム内容はもちろん、部活やアルバイト、研究、留学など、学生のうちにできることは無限に存在します。是非この学生時代、様々な事にチャレンジし、医師となる上で大きな土台を築いていただければと思います。

“High on life till the day we die.”（最期の瞬間まで、最高に人生を楽しもう。）という言葉をご存じでしょうか。これはDJの神様と言われるMartin Garrixの有名な格言です。人生は一度きり。残されている時間は有限であり、いつかは終わってしまう。そんなたった一度の自分の人生なのだから、どんな事に対してもポジティブに楽しむ心を忘れず、自分自身に誇れる人生を生きていこう。そんな意味が、この言葉からは感じられます。

学生の皆さんは今、自分のこれまでの人生を振り返ってみていかがでしょうか。勉強を一生懸命頑張った方、そろそろ真面目に勉強しなくてとは焦っている方。スポーツに勤しんだ方、遊びに明け暮れた方。その他にも様々な方がいらっしゃると思います。その中で「医学部に合格した」「様々な場所を旅した」「大会で優勝した」といった、多くの経験が頭をよぎることでしょう。あるいは人によっては「大事な試験で失敗した」「大けがをした」といったことも頭をよぎるかもしれません。ただ、良いことにせよ悪いことにせよ、そういった経験が皆さんの人生におけるエッセンスとなっているのではないのでしょうか。

経験は、自分の人生を彩る重要なファクターです。見たこと、聞いたこと。食べたもの、訪れた場所。経験には様々なものが存在します。ただ、どのような出来事も、受け身で経験するだけでは皆さんの財産とはなりません。一つのことに集中して深めていくこと。様々なことにチャレンジして多様な視点に触れること。好きなことだけに専念して極めること。苦手の一つ一つ克服していくこと。どういった形でも構いませんが、経験を糧にするためには、自分自身が能動的に、積極的に行動することが重要です。学生時代の貴重な時間を無為に過ごして無駄にしてしまうのはもったいないですね。何かをやり続けていれば、それが誰も成し遂げたことのない功績につながるかもしれませんし、様々なことを経験していたら本当に自分が好きなこと、自分に合うものを発見できるかもしれません。飲み会ひとつとっても、気が進まない飲み会に行ったら思いもかけず素敵な出会いがあるかもしれません。それゆえ、フットワークを軽く保つ事はとても大切でしょう。自分から積極的に行動して貴重な経験をひとつずつ積み重ねていった先に、自分だけの最高の人生、すなわち“High on Life”はあるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、自信満々に紹介したこの格言は、私が巻頭言で何を書こうか悩んだ際、新潟に来る前からずっと好きなDJ、Martin GarrixのHigh on Lifeがちょうどイヤホンから流れてきたので、これだ！と思い決めました。うまく誤魔化せたでしょうか。

このような私を学友会委員長として1年間、多くの貴重な機会にチャレンジさせていただき、至らぬ点も多々あったかは存じますが支えてくださった全ての方々に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後とも学友会をどうぞよろしくお願い申し上げます。